

平成29年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
畜産部門

口蹄疫のピンチをチャンスに変えて衛生レベルの高い養豚産地に復興

○氏名又は名称 有限会社 香川畜産 (代表 香川 雅彦)

○所在地 宮崎県児湯郡川南町

○出品財 経営(養豚)

○受賞理由

・地域の概要

川南町は、宮崎県のほぼ中央に位置し、面積90km<sup>2</sup>、人口約16,000人の温暖な気候と豊かな自然に恵まれた町である。養豚は、産出額が66.7億円で畜産全体の約42%、農業全体から見ても約29%を占める町の一大基幹産業となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

香川畜産は、香川氏が昭和62年に父から経営を引き継ぎ、平成22年には母豚規模540頭の安定した一貫経営にまで成長したが、同年宮崎県で発生した口蹄疫により香川畜産も含めた地域の全養豚農場で飼養する豚全頭が殺処分の対象となった。この時、自農場の再建に取り組みつつ、当該地域の養豚生産者のリーダーとして「西都児湯新生養豚プロジェクト協議会」を立ち上げ、新たに地域の肥育農家に子豚を供給する繁殖部門を設立して対応するなど地域の養豚復興に大きく貢献した。

・受賞者の特色

(1) 口蹄疫からの復興への貢献

- ① 地域に豚がいなくなったことを疾病の無い状態として、「ピンチをチャンスに」と前向きに捉え、特定疾病清浄化の養豚産地を目指して、香川氏を中心に養豚生産者が主体となって「西都児湯新生養豚プロジェクト協議会」を設立し、地域養豚の復興に尽力した。
- ② 自社の経営を口蹄疫以前の母豚規模540頭まで再興するとともに、地域の肥育農家へ清浄な肥育もと豚を供給するための繁殖農場を新たに立ち上げた。現在では、当該繁殖農場で母豚規模780頭まで拡大し、年間18,500頭の子豚を供給している。

(2) 高い生産技術

香川畜産は、経営技術を競い合うベンチマーキングに参加しており、その中で全国トップクラスの成績と評価されている。具体的には種雌豚1頭当たり年間分娩頭数は32.1頭(全国24.2頭)、同年間肥育豚出荷頭数は27.4頭(全国22.0頭)、さらに、飼料要求率(1kg体重を増やすために必要な飼料量(kg))も肥育豚で2.7(全国2.9)と極めて高い技術水準にある。

(3) 職員の福利厚生と女性の活躍

厚生年金、社会保険、退職金共済への加入、週休2日制、リフレッシュ休暇の導入、独身寮や研修施設の建設を行っている。また、女性を6人雇用し、香川氏の妻は、飼養管理、簿記記帳や技術データの処理と管理を担当するなど、働きやすい職場環境の整備及び女性の社会進出にも力を入れている。

・普及性と今後の発展方向

香川畜産は自社の経営だけでなく地域の養豚振興に貢献しており、地域とともに歩む畜産経営のモデルとなる。若い後継者に農場内の労務管理及び飼養管理を担当させるなど、今後の安定した経営にも期待ができる。